

平和祈念講話会、平和上映会、平和展を開催しました

平和祈念講話会

7月29日、中央公民館において、加古川市原爆被爆者の会から講師をお迎えし、「平和祈念講話会」を開催しました。町内中・小1年生と住民の方約400人が参加し、講師の被爆体験のお話に耳を傾けました。

最初に映画「にんげんをかえせ」を鑑賞し、加古川市原爆被爆者の会の小林愛子さんと相良勝三郎さんから、それぞれの被爆体験についての話を聞きました。「原爆の悲惨さは通常兵器とは比べものにならない程の規模で、さらに放射能の後障害により今でも苦しんでいる人がいる。核兵器は絶対いらない」と核兵器廃絶を訴えられました。



▲被爆者から直接お話を聞きました

平和上映会

7月30日、原子爆弾により一瞬にして廃墟となったヒロシマでたくましく生き抜く少年ゲンの姿を描いた長編アニメ「はだしのゲン」の続編「はだしのゲン2」を上映しました。

平和展

8月11日から21日に、広島・長崎の原爆についての写真やポスターなど、広島平和記念資料館からお借りした貴重な資料を展示しました。

播磨町サマーフェスティバルが開催されました

昨年までの播磨町夏まつりに代わる新たな町の夏イベントとして、8月27日に「播磨町サマーフェスティバル」が開催されました。

自由広場でのスイカの種飛ばし大会などのゲームのほか、ウォーターバレーボール大会など新たな楽しみが加えられました。しかし、残念ながら、浴衣姿で模擬店のグルメを楽しむ人が増え始めた午後6時すぎ、突然の大雨によりそれ以降の催しが中止となってしまいました。



▲多くの模擬店が並んだ会場

竪穴住居に泊まる 弥生生活体験

8月1、2日に、「竪穴住居に泊まるオポナカムラ古代体験教室」が郷土資料館主催で開催され、町内外の小学5、6年生20人が参加しました。

友達づくりのゲームから始まり、古代食づくりでは火おこし器でなかなか火がおこせなかったり、土器での塩づくりや古代米炊きでは煙が目にしみて苦労したりしていました。夜は、目隠しナイトウォークなどで大遺跡の自然を体感し竪穴住居に泊まりました。

「竪穴住居に寝て不思議な感じがした」「朝5時30分に起きての朝食づくりは眠くてしんどかったけど、後片づけのころになると楽しくなってきた」など、参加した子どもたちはひと回り成長したように思えました。



▲大昔の住居で眠れるかな

「中央公民館の七夕まつり」開催 笹の葉さらさらの歌声が始まった七夕まつり

7月30日、七夕飾りといえばの大ホールに、400人を超える人たちが集まりました。ヨーヨーつり、ケナフのストラップ作り、しおり作りなどの8つのコーナーを順番に回り、たくさん笑顔があふれていました。公民館のロビーでは、前日まで七夕飾りを飾っており、連日訪れていた子どもたちが願いごとを書いた短冊を吊るしていました。中央公民館では、これからも、季節の行事を伝える催しを開催していく予定です。



楽屋裏

今月の表紙は、県選抜チームによる水球競技模範試合の様子です。(8月27日播磨町サマーフェスティバルにて)

選手たちが、力強い泳力でボールを何度も往復する様子を間近に見ると、見慣れた町民プールがとて小さく見えました。テレビではなく直接ゲームを見るといふことは、子どもに限らず、大人もその競技のおもしろさを実感することができました。

播磨町夏まつりに代わって、催されたサマーフェスティバルでしたが、午後6時頃に激しい雨が降り、途中で中止となりました。

(宮)

わんぱくはりまっ子



きむらりこ 木村 莉心ちゃん(2歳) 上野 添

笑顔に疲れも癒されます。これからも元気に育ってね。 パパ、ママより

(宮)

いいね! はりま

町政 レポート No.57



▲海面上昇に備えて防潮ゲートを閉める(訓練で撮影)

立春から数えて二百十日目の9月1日、2日頃は、昔から台風が多く発生するため警戒されてきました。今年はずいぶんその日に大型台風が西日本を襲い、播磨町にも被害が発生しました。台風12号の被害に遭われた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

◆9月2日から4日までの間、播磨町においても1時間あたりの最大雨量が40mlを超え、総雨量も300mlを超えるという、近年まれな激しい豪雨を伴う大型台風が通過しました。町では警戒本部、対策本部を立ち上げ、大勢の職員が昼夜対応に追われました。しかしながら、この長時間の降雨により、播磨町の西部を流れる水田川が増水し、30戸を超える床上・床下浸水が発生いたしました。水田川については、県により下流から上流部への治水工事が鋭意進められているところですが、すでに工事を終えたところについては、治水工事の効果が証明されています。町としても残された部分の工事の一日も早い完成に向けて、国や県に対し要望を重ねていきたいと思っております。

◆また、今回の台風の影響で、2市2町の下水の最終処理を行う「加古川下流浄化センター」において、処理能力を上回る流入があり、播磨町でも南部地域の一部でトイレが使用できないという事態が発生いたしました。仮設トイレの貸し出しなども検討いたしました。こうした中で、地元自治会に自治会公民館のトイレ開放を要請いたしましたところ、快く了解をいただき、便宜を図っていただきました。ご配慮に感謝いたします。

◆今後、これまでにない様々な自然災害の発生も懸念される所ですが、住民生活の安全を守るため、自治会や自主防災組織などとの連携をさらに密にしていきたいと思っております。

播磨町長 清水ひろ子